



中国に息づくイスラム教

撮影・文 近藤雄生 Kondo Yuki

「シルクロード」が賑わった時代に、陸や海を通じて、中国にもイスラム教が伝わり、人々の生活習慣を変えていった。そして中華人民共和国の時代に入って、イスラム教を信仰する人々として「回族」という少数民族が認定された。

いまでは中国全土に広く分布し、漢族と姿形に大差はないが、男性の被る白い帽子がひとときわ印象に残る。その白で周囲が埋め尽くされると、一瞬そこが中国であることを忘れかけたが、その多様性こそがまさに中国なのだと思ひ直した。



写真大●中国西部・青海省の省都・西寧には多くの回族が暮らしている。西寧で一番大きなモスク「東関清真大寺」の周りは、回族の生活で溢れている 写真小●甘肅省臨夏回族自治州。男たちが通りで談笑する姿は中国の他地域と変わらない。ただ、白い帽子が風景を異色に染める